

巻頭言

「令和の日本型学校教育の構築」を目指して

2021年1月16日、中央教育審議会において「令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)」がまとめられた。ここでは「個別最適な学びと協働的な学びの実現」という2本の柱が示され、この二つの「学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが指摘された。

教職課程センターでは、2017年度より高大連携・接続によるアクティブ・ラーニング研究会を開催しているが、第9回目となった本年度は「保健体育の授業におけるICTを活用した主体的・対話的で深い学びの授業改善」をテーマに、高校と大学の教員57名が研鑽を積んだ。ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせた内容で、まさに「令和の日本型学校教育の構築」に向けた研究会にすることができた。

さて、本年度の教職課程センターの特筆すべきことの一つが池田高校との連携事業を開始したことである。これは、池田高校の生徒が「総合的な探究の時間」に行っている課題研究に対して、学生が直接、現場で高校生に助言や支援を行うという取組から始まった。そして、10月5日に教育連携協定を結んだことにより、教職課程を学ぶ学生が池田高校の教員の授業を見学する機会にも恵まれ、個に応じた指導のあり方や多様な他者と協働することの大切さを実際の現場で学ぶことができた。

本年度のもう一つの特筆すべきことは5号館1階に新教職課程センターが完成したことである。この施設は、教職課程を学ぶ学生が教員としての資質・能力の向上を目指して自学自習できる場所である。自由に学べるスペースには連日、多くの学生たちが押しかけ熱心に勉学に励んでいる。また、ここでは、プロジェクターや電子黒板、タブレット端末などのICT機器を使って模擬授業を行うことができる。将来的には前後に設置されている2台のカメラを使って自分自身の授業を振り返ることも可能になる。令和の日本型学校教育ではICT機器の活用とその環境整備が喫緊の課題とされているが、まさにその環境を整えることができた。併設するTPO(Teaching Profession Office)には教員が常駐し、個別に学生を支援できる体制もできあがった。

今後、「Society5.0」時代に移行する中で、社会のあり方が劇的に変わり、学校教育のあり方も大きく変わっていく。そうした近未来に対応するためには、私たち教員が学び続けることが大切であり、この研究報告第25号がそのために一助になることを期待する。

結びに今回も貴重な研究成果をご寄稿いただいた皆さまに厚く御礼申し上げ、巻頭の挨拶としたい。

2023年3月1日

朝日大学教職課程センター長

虫賀 文人

